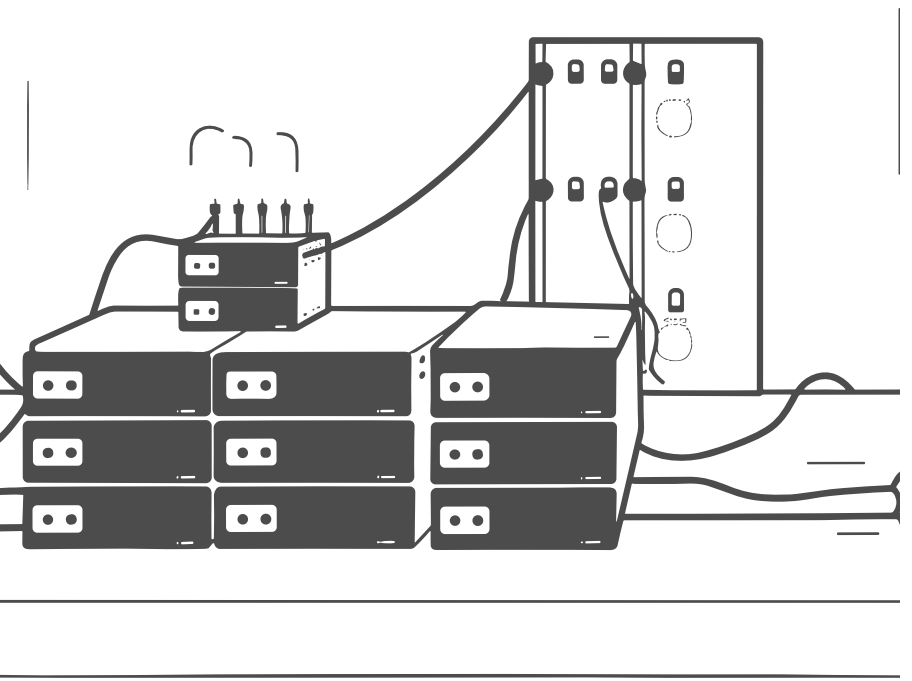


AI革命：米株における戦略的投資ガイド

人工知能（AI）は世代を画する技術変革であり、米国株式市場全体に数兆ドル規模の投資機会を創出しています。本プレゼンテーションでは、AIインフラ構築を牽引する長期的成長企業と、AIの応用・サービスレイヤーで新たに出現する循環的投資機会を明確に区別し、戦略的な投資アプローチをご提案します。



AIバリューチェーンの3層構造

01

基盤レイヤー

GPU、カスタムASIC、HBMなど、あらゆるAIシステムの構築に不可欠なコアコンポーネントを製造する企業群です。AIインフラの継続的な拡大に直接賭けることを意味します。

02

インフラレイヤー

AIモデルが大規模にトレーニングされ、展開される「工場」の役割を担います。ハイパースケール・クラウドプロバイダーが寡占し、AI-as-a-Serviceを企業に提供します。

03

アプリケーション＆サービスレイヤー

AIの「知能」が具体的なビジネス価値に転換される最も多様性に富んだレイヤーです。価値はインフラの「構築」からAIの「活用」へと移行していきます。

長期的成長の中核：NVIDIA

圧倒的な市場支配力

NVIDIAはAI向け半導体市場において推定8割から9割という圧倒的なシェアを握っています。その真の強みは、20年以上にわたって築き上げてきた独自のソフトウェアプラットフォーム「CUDA」にあります。

$4兆

時価総額

AI革命の中核企業として評価

56%

売上高成長率

2026年度第2四半期実績



データセンター部門の収益は116%増の325.56億ドルと、AIインフラへの爆発的な需要を明確に示しています。

ハイパースケーラーの軍拡競争

Microsoft (MSFT)

OpenAIとの戦略的提携をテコに、Copilotを全製品ポートフォリオに統合。Azure Cloudの売上高は前年同期比27%増の467億ドルに達しました。

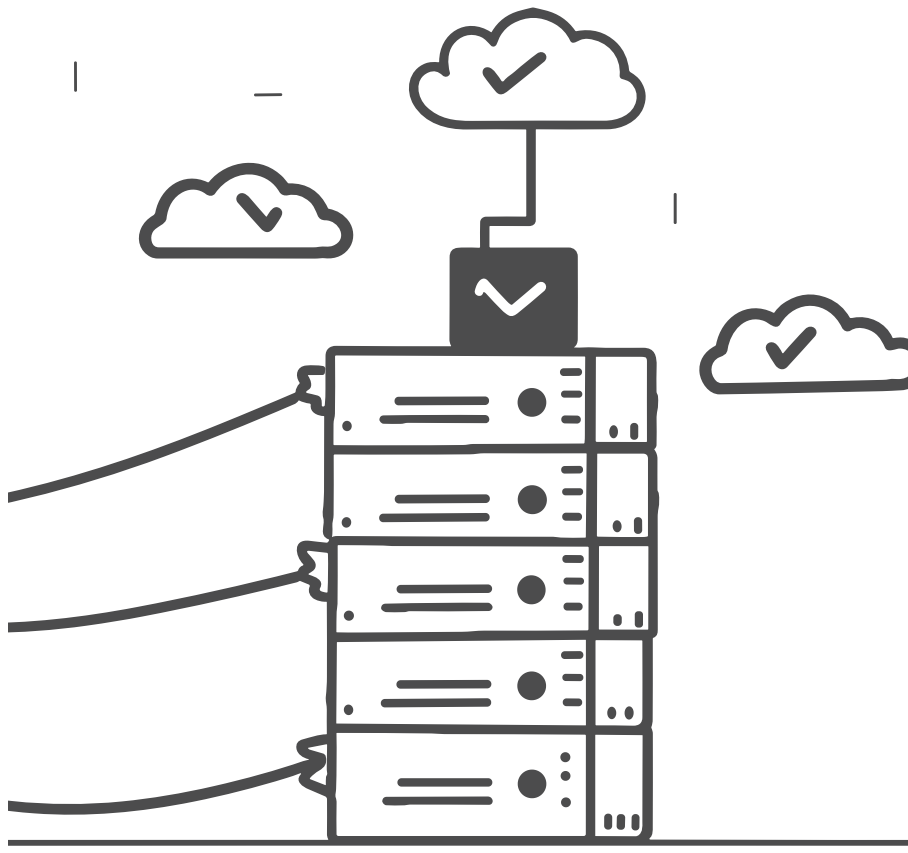
Alphabet (GOOGL)

最新の「Gemini」モデルを検索、クラウド、Workspaceに統合。Google Cloudの売上高は32%増の136億ドル、営業利益は前年同期の2倍以上に拡大しました。

Amazon (AMZN)

「Amazon Bedrock」や「SageMaker」を通じて、顧客が多様な基盤モデルから最適なものを選択できるオープンなアプローチを推進しています。

これらの企業による2026年の合計設備投資額は、前年比26%増の4,540億ドルに達すると予測されており、その大部分がAIインフラに向けられる見込みです。



重要な実現者たち

Broadcom (AVGO)

カスタムAIアクセラレータとオープンネットワーキングの王者として、NVIDIAの垂直統合型エコシステムに対抗する戦略を展開しています。

- OpenAIから100億ドル超の大型受注獲得
- AI関連売上が63%増の52億ドル
- Ethernetベースのオープンスタンダード推進

Micron Technology (MU)

HBM（高帯域幅メモリ）の不可欠な役割を担い、AIアクセラレータの性能を最大限に引き出すための重要なコンポーネントを提供しています。

- 競合製品比で最大30%低い消費電力
- NVIDIAのH200、AMDのInstinct MI350に採用
- 次世代HBM4の開発も進行中



次なる波：エンタープライズソフトウェアの変革

AIインフラの初期構築段階が成熟するにつれて、投資家の関心はバリューチェーンの上流、すなわちAIの「応用」と「収益化」を担う企業へと移行しています。



Palantir (PLTR)

企業向けAIの「OS」として位置づけられるAIPプラットフォームを提供。米国商業部門の売上高が前年同期比93%増という驚異的な伸びを記録しました。



Snowflake (SNOW)

「データ戦略なくしてAI戦略なし」という思想を掲げ、AI時代のデータ基盤を提供。32%の収益成長と125%のネット・レベニュー・リテンション率を達成しました。



Salesforce & Adobe

既存の巨大な顧客基盤に対してAI機能をアップセルすることで、新たな収益源を創出し、競争上の優位性を強化しています。

ニッチなイノベーターと高成長の破壊者

1

Upstart Holdings (UPST)

金融業界にAIを適用するフィンテック企業。従来のFICOスコアに代わり、多様なデータを用いたAIモデルで信用リスクを評価します。融資実行額が前年同期比154%急増しています。

2

SoundHound AI (SOUN)

音声認識と会話型AIの分野で世界をリードする企業。自動車、レストラン、IoTデバイスなど多岐にわたる分野で音声AIプラットフォームを提供。売上高が前年同期比217%増の4,270万ドルに達しました。



これらの企業は特定の垂直市場に特化した純粋なAI企業として、高い成長ポテンシャルを持つ一方で、事業リスクも比較的高いハイリスク・ハイリターンな投資対象です。



「隠れた」受益者：二次的波及効果

AIブームは、直接的なテクノロジー企業以外にも恩恵をもたらします。これらの二次的、三次的な受益者への投資は、同じ長期的トレンドに対して異なる角度からアプローチする有効な戦略となります。

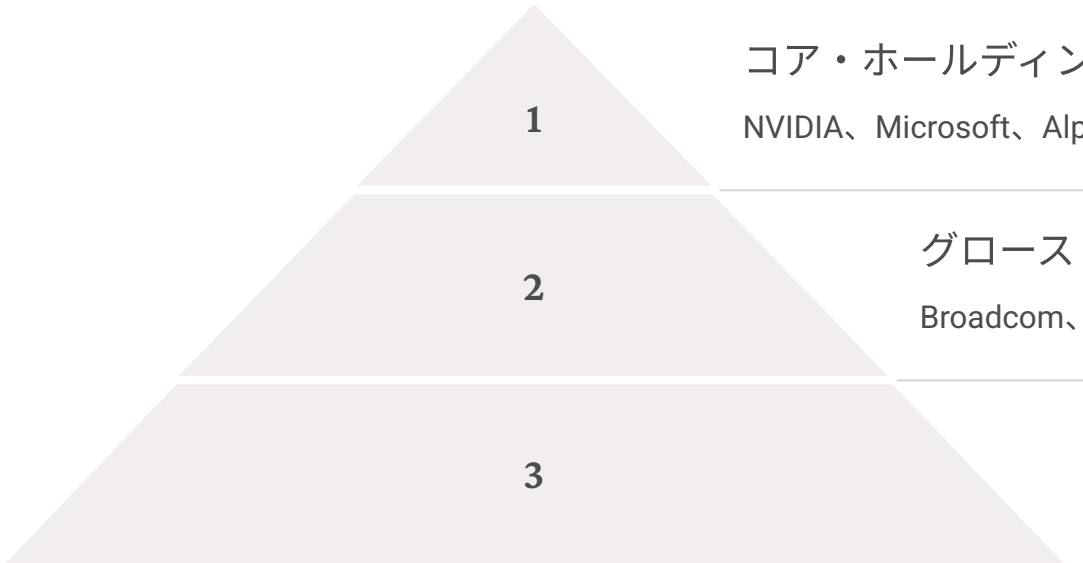
半導体製造装置

Applied Materials (AMAT)、Lam Research (LRCX)などの製造装置メーカーは、AIチップやHBM製造のための巨額設備投資の直接的な受注増につながります。

電力・エネルギー

Constellation Energy (CEG)のような原子力発電所を保有する企業は、AIデータセンターの膨大な電力需要に対応する安定したクリーンエネルギー供給で有利な立場にあります。

戦略的ポートフォリオ構築アプローチ



コア・ホールディングス

NVIDIA、Microsoft、Alphabet

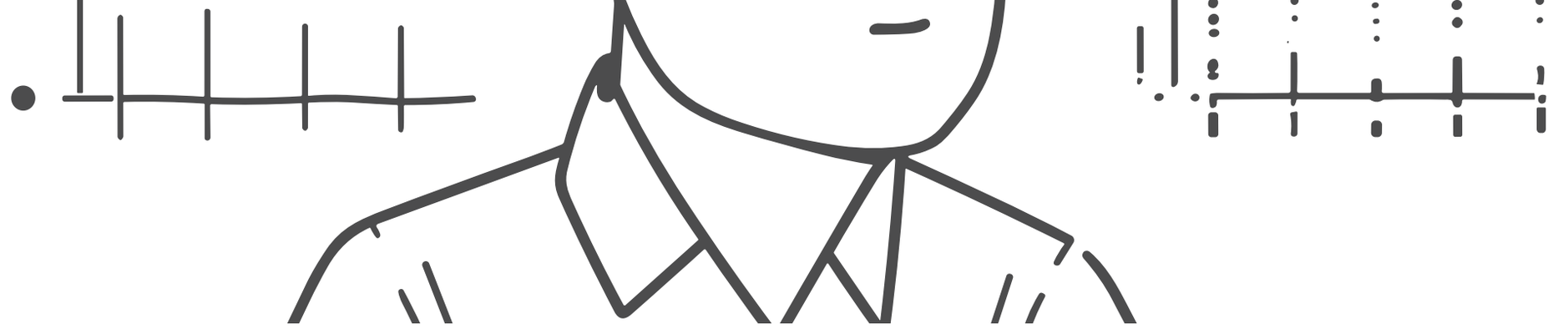
グロース・サテライト

Broadcom、Micron、AMD

ローテーション／バリュー志向

Palantir、Snowflake、Applied Materials、Constellation Energy

リスク許容度と投資ホライズンに応じたバランスの取れたポートフォリオ構築が重要です。地政学的リスク、競争の激化、バリュエーション・リスク、規制強化などの潜在的なリスクも慎重に評価する必要があります。



2026年への展望：AIランドスケープの進化

推論（Inference）へのシフト

AIモデルの「トレーニング」から学習済みモデルを活用する「推論」がAIワークロードの大半を占めるようになり、より効率的なチップが求められます。

1

エージェントAIの成熟

自律的に業務を遂行するAIエージェントが企業の基幹業務プロセスに本格導入され、優れたプラットフォームを提供する企業が勝者となります。

3

2

エッジAIの台頭

AI処理がクラウドからPC、スマートフォン、自動車といったエッジデバイスへ移行し、Qualcommのような企業に巨大な成長機会をもたらします。

AI革命は単なる一過性のブームではなく、今後数十年にわたって続く構造的な技術変革です。バリューチェーンにおける各企業の独自の役割を深く理解し、市場の焦点がインフラの「構築」からインテリジェンスの「展開」へと進化するのに合わせて、戦略的に資本を配分していくことが成功の鍵となります。